

第21回 日本女性科学者の会奨励賞受賞者（あいうえお順、敬称略）

大神田 淳子 (**OHKANDA JUNKO**) 京都大学化学研究所 准教授 博士（工学）東京大学

研究課題：「タンパク質間相互作用を調整する合成分子の創製」

賞贈呈理由：大神田氏は2005年以来、超分子化学の概念を基盤とする独創的な生理活性合成分子の開発研究を展開してきた。特に、自ら着想した低分子の集積化に基づく中分子の構築法は、たんぱく質間相互作用を対象とする新しい創薬のみならず、天然物ケミカルバイオロジー、プローブ開発など多方面への応用が可能なユニークなアプローチである。なかでも **K-Ras** たんぱく質間相互作用の阻害剤研究は、難治性がん治療薬の開発に新しい道を拓く先駆的な成果として、現在国内外で注目されている。

金 玖秀 (**Kim Minsoo**) 京都大学 白眉センター 特定准教授 博士（理学）東京大学

研究課題：「病原細菌による宿主粘膜感染の分子機構の解明」

賞贈呈理由：金氏は、病原因子の機能を分子細胞生物学や生化学などの手法によって解析し、腸管病原細菌の感染成立機構を解明してきた。特に、腸管病原細菌が宿主細胞の接着シグナルやユビキチン修飾系を巧妙に利用して、感染を成立させることを発見した。また、構造生物学の手法を取り入れて、病原因子の作用機序を原子レベルで解明することにも成功してきた。これらの成果を基盤として、今後病原因子の機能を阻害する化合物の同定を進めることで、細菌感染症の治療・抑制技術の開発に寄与することが期待される。

第21回 日本女性科学者の会功労賞受賞者（あいういえお順、敬称略）

赤松 良子 (**AKAMATSU RYOKO**) 日本ユニセフ協会会長、WIN WIN 代表、クオータ制を推進する会代表

賞贈呈理由：赤松氏は、東京大学法学部を経て労働省に入省後、一貫して女性の労働環境改善に取り組んできた。例えば、婦人労働課長時代には勤労婦人福祉法の立案に際し、育児休業制度を盛り込んだのはじめ、国連公使として女子差別撤廃条約に賛成票を投じたり、女子差別撤廃条約批准に関わる国内法整備として、1985年制定の男女雇用機会均等法立案の中軸となったりした。また、ペンネーム「青杉優子」として女子の結婚退職制を批判する論文も発表。現在は、女性政治家を増やすことを目的とし、選挙での女性候補者を支援する団体「WIN WIN」の会長を務めるとともに、女性政治家の数的確保を目指す「クオータ制を推進する会」の代表としても活躍中である。以上のように女性の地位向上に関する赤松氏の功績は極めて優れており、現在も女性の労働環境改善に強靱な意志を持って取り組まれている。

角谷治子 (**KAKUTANI HARUKO**) 日本女性科学者の会前理事、理学博士 東京教育大学

賞贈呈理由：角谷氏は、1970年の設立まもない日本婦人科学者の会(1958年設立。現日本女性科学者の会)に入会以来、長きに亘り、会員として、また、幹事、理事、監事として会の運営に尽力した。1995年制定のSJWS賞規定や2005年制定の倫理規定の策定への貢献は特筆すべきものがある。民間企業の研究所で、基礎的研究に従事する中で博士号を取得し、第1回日本婦人科学者訪中団に参加して中国でその成果についての講演を行うなど国際交流にも貢献した。企業では、知財・特許の係争の担当部長として業務を遂行し、定年退職後は、母校の社会人大学院に入学し、法科で特許権についての研究を続け、「生涯勉強」のロールモデルも実践している。女性研究者の少ない民間企業の立場から、当会の活動推進の

ために、常に活発な発言を行うなど、女性研究者の地位向上の取り組みに多大な貢献をされた。

北川慶子 (**KITAGAWA KEIKO**) 聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科 教授、博士 (社会福祉学)

賞贈呈理由：北川氏は、日韓中米での高齢者施設と医療・福祉の生活環境指標の評価と検討、保健福祉と防災・災害救助・復興支援に貢献できる人材育成などをテーマとして、国際的にも非常に幅広く活躍している。特に、「防災文化を築く次世代のための防災教育」に関する講演会での報告、更には、アジアヒューマンサービス学会の会長や国際社会危機管理学会理事として、数々の研究活動を基盤とした人材育成に取り組んでいる。北川氏の多彩な社会貢献は、国際ソロプチミストMD奨学賞 (1999年)、中国淮海工学院大学栄誉賞 (2001年)、韓国太田市社会福祉貢献賞 (2010年) 等、数々の受賞に示されるように海外でも評価されている。このように、幅広い教育・研究活動に加えて男女共同参画に関連する活動にも尽力し、前任地である佐賀大学では、男女共同参画の発展に大きく貢献した。